

パパ・ママ子育て知恵袋

第38回は「でき過ぎる子」

ユースケ君は、小さい頃からとても賢くて、聞き分けのよい子供でした。パパママにとって手のかからない自慢の子でもありました。幼稚園時代からお友達とケンカすることもなく、そういう雰囲気になると、さっと身を引くような子でした。小学校入学前から特に教え込んだわけではありませんでしたが、ひらがなとカタカナの読み書きは習得していました。小学校に入ってから、お友達も先生も、ユースケ君に「できる子」のラベルを貼りました。本当に「できる子」でした。

でも4年生になった頃から、ユースケ君は学校に行きたがらないようになりました。お友達とのトラブルは見られません。むしろユースケ君が学校を休むと何人ものお友達がお見舞いに來たほどです。ユースケ君は学校に行かなくなりましたが、自宅でパパママの指導もあり、PCを使って勉強にはしっかり取り組んだので、遅れをとることはありませんでした。6年生になってからは、全国模試でもかなり優秀な成績をとるほどでした。でも学校には行けないままです。

不登校になってから心療内科の先生とのお付き合いが始まりました。先生いわく。「ユースケ君は大変優秀な子で、何でもすぐに理解できるし、それは勉強だけでなく、まわりの空気も人一倍読んで、自分はどう行動すればよいか考えられる子です。世の中には、空気を読むことが苦手で、我がままに見えてしまう子がいます。文字は読めるけれど、数字は理解できない子もいます。丸い図形がゆがんで見える子もいます。それぞれの脳がそういう仕組みになっているんです。ユースケ君はいっぺんに大量の情報を五感すべてを使って処理しようとする脳の持ち主です。疲れてしまって当然です。」

ユースケ君は「できる子」ではなく「でき過ぎる子」だったようです。先生はパパママに言いました。「でき過ぎる子の多くは、できない子を下に見ます。世の中の出来事がみんなアホらしく見えてしまいます。これはこれでしんどいです。でも、ユースケ君は、できない子を決して下に見ることはありませんし、世の中を悲観的に見ることもありません。自分が変なんじゃないかと思ってしまいます。けっこうつらいと思います。」

ユースケ君は今、自宅から出ることはありませんが、自分がのめり込めるものを探しています。先日は博物館の学芸員さんとPCの画面越しにお話をしたそうです。**パパママは今、自分たちにしみついた「普通」と戦っているそうです。**